



虹かけ誌 アイドルマスター特集10

サンプル



安部菜々 深夜ラジオで捕まえて

【倒壊道ラジオ ウサミン星の電波直撃ラジオ オ
ンエア―開始】

安部菜々「こんばんは♪ 今夜もウサミン星の電波
を受信する用意は出来たかな？」

命乞いしても無駄だぞ？

ウサミン星の電波は、脳に直接届きますからね！

オープニングふつおた（普通のお便り）は、ペン
ネーム『ダイダロス・アタックは右ストレートを振
じ込むように打つべし打つべし打つべし』さんから。

『俺え、ウサミンのＡＶ落ちを期待していたのに、
七年経っても、落ちてくれません。

一年で落ちると思ったのに。

二、三年で、中出し解禁になると思ったのに。

人生の計画が狂いました。

やはり永遠の十七歳だと、永遠にＡＶ落ちしない
のでしょうか？

政治家になって、ＡＶ落ちは十七歳からでも可能

な法律に魔改造した方が、速いでしょか？

真剣に悩みます』

正直過ぎるお便り、ありがとうございます。

四十八時間以内にツイッターで詫び入れて全裸で土下座する画像をアップしなかった場合、お前の本名と現住所と勤務先を晒すから、覚悟しろ♡

CMの後は、このお便りを選んだ番組ディレクター補佐を拷問するから、良い子のみんなは音量を下げて聞いてね。

【CM】

島村卯月「あ、あの、先程もらった落花生の袋を確

認したら、かわいいプリントのコンドームだったの
ですが…これ、事故ですよね？」

安部菜々「（匂いを嗅ぐ）大丈夫、未使用だから、
未だ使えるよ」

島村卯月「使いませんよ！」

安部菜々「種が溢れない無敵のコンドーム『プリテ
イスキン』 九情承太郎商店から大絶賛販売中」

【倒壊道ラジオ ウサミン星の電波直撃ラジオ C
M後】

安部菜々「さあ、番組ディレクター補佐の園田智代
子さん。拷問の時間です」

園田智代子「（緊縛されながら）ウサミン、緊縛が

上手だねえ。プライベートでも、彼氏にしてあげて
いるの？」

安部菜々「いえ、されて好きにされる方で、する方
は特に：拷問を誘導尋問で返そうとするなああ
あ！！！（キツく縛り上げる）」

園田智代子「（緊縛完成）おおー。胸への絞り具
合が、何だかエッチです」

安部菜々「これくらいだと、揉むのも挟むのも揺ら
すのもソフトに対応：だから拷問を誘導尋問で返す
な！」

園田智代子「ラジオなのでお見せ出来ませんが、私
は今、『下着姿で緊縛されたアイドル』です！ 緊
縛だけは初体験！」

安部菜々「よし、チョコちゃん。拷問の時間です。
正直に答えないと、ドロドロに溶かしたホワイトチ

ヨコレートを全身にぶっかけて、スクショしまくって拡散する！ 緊縛&ぶっかけ画像の出回ったアイドルなんて、もうお終いだよ！」

園田智代子「ホワイトチョコのぶっかけ絵面なら、二冊目の写真集で既にやりましたよ」

安部菜々「仕事を選べ、チョコ助〜!？」

園田智代子「：選んでいないから、こんな所に、いるんですよ（どんより）」

安部菜々「やめて！ マジで凹まないで！ オンエア中だから！ 明るく楽しく拷問されよう！」

園田智代子「はい！ 明るく楽しく拷問されます！」

安部菜々「では、質問です。

オープニングふつおた（普通のお便り）に、何故にあげなメールを選びなすった？」

園田智代子「六通あったメールのうち、一番まとも

だったからです！」

安部菜々「即答で大惨事！！」

園田智代子「だって：

『ウサミンは17歳のはずなのに、この番組は七周年。時空が歪んでいるのでしょうか？』

とか

『ウサミンにオーラルプレイを頼んだ場合の、俺の反応集パート7』

とか

『ウサミンと同じ高校に通っていた者です。校舎裏で先輩に立ちバックで処女膜を捧げていた場面を覗き見した黒歴史を告白します。ごめんね』

とか

読んでしまったら放送事故のネタばかり送られて

来たから、悩んだ末に……」

安部菜々「はい、すみません、私に人徳が無いのが原因です。アホなファンばかりで、すみません」

園田智代子「悩んだ末に、一番実現しそうな手紙を選びました！」

安部菜々「そういう時は全部没にして、適当なふつおた（普通のお便り）をでっちあげればいいの！　リスナーには分からないから！」

（番組ディレクターから、CMに行けとの指令）

安部菜々「ここでCMです。CMが明けたら、チョコちゃんの処刑に入ります」

園田智代子「？　拷問は？　拷問はどこに？」

【CM】

安部菜々「あ♡だめ、そんなにかけちゃ…顔にばかり、ぶっかけないで…もう、飲めないよう…え？メロン味？」

渋谷凜「目や口に入っても安心安全。擬似ぶっかけプレイに最適『白濁液Z』（200ml）メロン味とイチゴ味の二種類 九情承太郎商店から大好評販売中…菜々さん、仕事は選びなよ」

【倒壊道ラジオ ウサミン星の電波直撃ラジオ C
M後】

安部菜々「満月よ！　その美しい顔を隠すがいい！
これから始まるエロい惨劇を見なくて済むように！」

園田智代子「ひいひいひいひい（やや棒読み）」

安部菜々「これより『下着姿で緊縛された園田智代子』を、放送局付近で出待ちしているファンの前に
晒します！」

園田智代子「ひいひいひいひい（本気）」

安部菜々「一応、晒すだけなので、お触りとかペロ
ペロとかは、許しません。スクショだけ。くんかく
んかは、60センチ以上離れてなら、可！」

園田智代子「可？！」

安部菜々「さあ、放送時間終了前に、いい悲鳴を上
げてねチョコちゃん！」

園田智代子「番組が打ち切りになるようなファンが
現れたら、どうする気ですか〜」

【倒壊道ラジオ 関係者通用口】

安部菜々「ほれ、キリキリと歩きなさい」

園田智代子「えゝん、ウサミン星人に、昭和の時代劇の急かされ方をされたゝ」

（周辺には、警備員と、離れた間合いで待機する、数名の出待ちファンだけ）

安部菜々「∴園田智代子ファンの方は、いらっしやいますかゝ？」

（数名の出待ちファン、首を横に振る）

園田智代子「…残酷な処刑ですね。出待ちのいないアイドルである現実を突き付けるなんて…」

安部菜々「き、きっと今頃はリアタイの最中だから、急いで接近している最中だよ！」

園田智代子「このシチュエーションで急行するファンは、確実にヤバイファンですよ」

安部菜々「…戻ろう。これはこれで、いい処刑だった」

園田智代子「ウサミンにだって、出待ちファンがないですよ！」

安部菜々「言うんじゃねえよ！」

（一人の出待ちファンが、安部菜々の方にプラカードを見せる）

安部菜々「いた！ 私の財布！」

園田智代子「言い方！」

（プラカードの文字は「佐々木千枝をウサミン星に行かせ隊」）

安部菜々「…どないせえっちゅうねん」

園田智代子「…ウサミン、色々と詰み過ぎですよ」

【倒壊道ラジオ　ウサミン星の電波直撃ラジオ　オ
ンエア―終了】

芹沢あさひ

秋葉原に立つっす



芹沢あさひ 秋葉原に立つっす

「プロデューサーさん。秋葉原には、仕事以外で行った事ないっす。案内するっす」

「あのなあ、君たちアイドルが素顔で秋葉原や池袋や中野に行った場合、全周囲からファンが湧いて集まってしまう、バイオハザードが発生するからダメ

だ」

「するなら、いつそ見てみたいっす」

芹沢あさひは、真顔で言った。

単独で行かれても困るので、俺の方で準備を整える。

事務所の経費で身辺警備を頼み、秋葉原のラジオ会館前で合流する。

その警備員を一目見るなり、芹沢あさひは確認を取る。

「プロデューサーさん！ この『ウォーキング・デッド』の名悪役ニーガンにしか見えないコスプレイヤーは、誰っすか？」

「秋葉原での身辺警備をお願いした、警備員オーツ・カーさんです」

「よう」

有刺鉄線を巻いたバット（ルシール）を肩に担ぎながら、不良中年っぽい警備員オーツ・カーさんが、芹沢あさひに笑顔で挨拶する。

「俺がルシール（有刺鉄線バット）を持って側にいりゃあ、誰も失礼な真似はしねえ。安心して観光しな」

「プロデューサーさんが発情して、私をホテルに連れ込んで押し倒した場合は、どうするっす？」

「合意なら、許す」

「中には出さないでと言ったのに、中に出した場合
は？」

「ゴールデンボールを潰す！」

「なら大丈夫っす」

その納得の仕方で大丈夫か？

まあ、いいや。

まずは万世橋方面に進み、万世橋警察署に一礼する。

一年中、秋葉原を守ってくれて、ありがとうございます。
います。

「プロデューサーさん、ひょっとしてラブライブ！の聖地の方に行こうとしているっすか？」

「うむ、まずはJ R万世橋ビルを詣でて、万世橋駅跡のマーチエキュートの何れかの店で、まったりとお茶を……」

「表のスポットに用はないっす。裏道に行きたいから、プロデューサーさんを引っ張り出したっす」

「やだ、あさひを連れて行きたくない」

「何しに来たっすか！？！？」

仕方ないので、電気街の裏手に行く。

まんだらけや謎の機械パーツ店、ニッチなコンカ

フェヤ、レトロゲーム店を見せて、芹沢あさひの好奇心を充足させる。

これで満腹になってくれ。

「プロデューサーさん！ あのビルに怪しいコスプレ店があるっす！ 対魔忍を体験出来るプレイって何すか？」

「知らなくていい！」

嫌がる俺を引きずって、芹沢あさひは怪しいビルの怪しい店に入ってしまう。



鷺沢文香に本屋の販促を依頼する反則店だニャロメ

鷺沢文香に本屋の販促キャンペーンを依頼された
ので、許可しそうになったけど依頼書の隅に小さく
書き込まれた注文を見て思い止まる。

『鷺沢文香の生乳色紙二十枚』

うちの鷺沢文香が、する訳ないだろ。

突き返したら、その部分だけ削除して再び依頼書を上げてきた。

ちょっと信用出来ない匂いがプンプンするので、客のフリをしてその書店に行ってみる。

秋葉原の表通りから百メートル以上奥に進んだ裏の裏。

消防法を守っているのか不安になる汚ったない雑居ビルの三階に、依頼をしてきた「くんかくんか書房」は入っている。

ちなみに一階は怪しいパソコンパーツ屋で、二階はエロビデオ販売店だ。

良い子のみんなは、探しちゃいけないぞ。

「くんかくんか書房」の入り口には、等身大の鷺沢文香（裸セーター）パネルが飾られている。

芸能事務所には無許可で作られた、「くんかくんか書房」の手製だ。

良き出来なので、見逃してあげよう。

店内に入ると、鷺沢文香のコスプレをした店員が少なくとも三人、視界に入る。

メイド姿の鷺沢文香型店員、ウェイトレス姿の鷺沢文香型店員、バニーガール姿の鷺沢文香型店員を確認した。

良い店だ。

見逃してあげ：

「いらっしやいませ♡」

店の奥に、18禁のカーテンで遮られたコーナーの奥から、逆バニー姿の鷺沢文香型店員が顔を出した。

俺の顔を見るや、「うげえ?!」と叫んで奥に引

っ込む。

鷺沢文香のマネージャーの顔を覚えているとは、コアなファンで間違いない。

追撃してカーテンを潜ると、そこは鷺沢文香メインのエロ同人作品の宝庫だった。

ディスプレイでは御丁寧にも、動画生成AIで出力した「鷺沢文香が出演しているかのようなアダルト作品」を垂れ流している。

「うむ、尻肉の再現度が、合格点だ。ヘソが少し甘い」

「お、お見逃しを！ 本人様には迷惑をかけませんので」

鷺沢文香に顔が73%似ている逆バニー姿の店員が、卑屈に土下座して黙認を乞う。

「本人を此処に呼ぶ気だったくせに？」

たぶん本人が視聴したら、寝込んで三日は読書し
かない。

本人は、音を立ててしゃぶつたりしないし。

「ダメ元ですよ！ 城ヶ崎美嘉さんは、先月の『城
ヶ崎姉妹強化月間』に来てくれたし。あ、これは秘
密だった」

後で城ヶ崎美嘉を立ちバックで責め立てながら、
闇営業のお仕置きをせねば。

「あのねえ、本人は水着の露出も恥ずかしがる性格
だから。見逃すけど、本人にだけは、知らせないよ
うに……」

俺が穩便に常識的に話を終わらそうとしたのに、
カーテンを潜った客たちが、全てをぶち壊す。

「おう、今日も頼むよ。今日は『鷺沢文香がランジ
エリーを装備した状態でのパイズリ』を」

「拙者、本日は『鷺沢文香と対面座位でニャンニャンしたい』サムライ」

「鷺沢文香がキュアアルカナのコスプレをしている態で、素股を」

鷺沢文香に顔が73%似ている逆バニー姿の店員が、顔面蒼白になりながら、客達に不穏なハンドサインを送る。

たぶん「バレた、逃げろ」だろう。

18禁コーナーに入ってエロい注文を口走った客達は、四散した。

巢を攻撃されたゴキブリと同じで、二度と戻って来ないだろう。



黛冬優子に出前を依頼されたら毘だった

休日に積みアニメの消化をしている黛冬優子から、俺をウーバーイーツ扱いするメールが来た。

指定の激辛料理をテイクアウトしてアパートに届けると、部屋に入ってお茶を飲むように言われた。

もてなしてくれたのは、最初だけ。

そのまま雑用に使われ、椅子にされた。

「いいわね。今日のプロデューサーは、ふゆの椅子よ。邪念を捨てて、椅子として余生を全うしなさい」

「邪念を捨てた事がないです。どうやるの？」

「うっさいっ。黙って適度に抱きしめなさい」

黛冬優子が『プリズム輪舞曲』を一気見している間、俺は黛冬優子のレッドラインを想定しつつ、一緒に一気見して過ごす。

作品が面白いので、黛冬優子の背中と尻の温もりで股間が天元突破せずに済んだ。

黛冬優子も満足していたが、俺が全く発情していない方に不満を表す。

「勃起して臀部にすりすりする事ぐらいは許してあげたのに：ふゆには飽きたの？ 他ので抜いたばかり？ 相手は誰？」

そこで正直に『芹沢あさひがフェラチオに興味津々だったので試し台になり、昨晩は六発抜きました』と言ったら黛冬優子が無明逆流れを繰り出しかねないので、誤魔化す。

「そこは『プリズム輪舞曲』を褒めるべきだよ」

「…そうね」

表情筋だけで笑顔を作りながら、黛冬優子は脱衣を始める。

ポイポイと衣服をパージし、Ｔシャツ一枚だけという恐るべき軽装備に変形してから、俺に座り直す。

次に『BEASTARS』最終シーズンを一気見しながら、俺の腰の上で臀部を故意にすりすりする。

ここは我慢せずに、勃起しておく。

すりすりまではオーケーという言葉信じ、ズボンを開けて逸物を解放すると、黛冬優子の剥き出し

の尻に密着させる。

尻肉を突かれて小さく悶える黛冬優子を抱えながら、『BEASTARS』最終シーズンを観て過ごす。



島村卯月 仕事を選ばずに、がんばります！

島村卯月が『がんばる方向』を間違えないように注意していたのだが、気付けばアダルトコンテンツに出演してしまっていた。

俺（プロデューサー）の多忙を、言い訳には出来ない。

神崎蘭子がセフレと箱根で二泊三日しっぽり温泉旅行を画策していたので阻止に忙しかったとか、赤城みりあが同級生にフェラチオしていたと文春砲されかけたので揉み消したとか、新田美波のクローン十人が新宿で暴れたので事態収集に五日寝ていないとか言い訳はしない。

島村卯月をガン詰めする前に、問題のアダルト作品のパイロット版を、精査する。

良かった場合、路線変更も、あり得るし。

仕事場の個室でノートパソコンを立ち上げると、横に島村卯月を座らせて、俺の鑑賞に立ち会わせる。既に羞恥で顔面が真っ赤だが、勝手に仕事を受けたお仕置きだ。容赦しない。

『タイトル未定』

冒頭のインタビューを早送りし、脱衣シーンも愛撫シーンもフェラチオも口内射精も顔面射精も早送りし、挿入直前で再生速度を通常に戻す。

アシスタントが、蕩けてベッドに沈みかける島村卯月に、段取りを再確認する。

「五分間、イクのを我慢してから、気持ち良さそうにイッてください」

「はい！がんばります！」

男優が、島村卯月の経験の浅い膣壺に、逸物を埋める。

完全に埋めて具合を確かめ、リズムカルに腰を動かしながら始めて二十秒で、島村卯月はイッテしまった。

「あ、卯月ちゃん、いっちゃったよ」

「早っ！？」

早過ぎる島村卯月に失笑する中、まだ繋がっている男優が、異変に気付く。

「あっ。すごく締まってきた！ やばいっっ」

「おい、抜け！ 中出しには合意してないから」

「中出しは三本目まで、お預けだ」

「うんっ、わかってゐるあっっ？！ あああっっっ」

島村卯月は、いったまま無意識に逸物を膣で締め上げ、男優を逃さずに射精させる。

「島村さん！ 離して！」

「やばいやばい、しまむーのプロデューサーに、処刑される」

「いや、事故だし」

「島村さん。離してください。お願いします」

島村卯月は、蕩けた頭で事態を理解し、事態の打開を試みる。

「：はい、島村卯月、がんばります」

意思の力で、逸物を締め上げようとする膣の動きを、逸物を押し出す方向に全振りする。

「あ……」

男優の逸物が更に刺激されて、連続射精を促しただけだった。

もう抵抗を諦めた男優が、二度目の射精を、島村卯月の胎内に施す。

「事故です」

もう開き直って、島村卯月に種付けプレスをしている。

他のスタッフが男優を引き剥がしてタコ殴りにし、島村卯月に詫びを入れる。

「すみません。事務所にも、正式に謝罪に行きますので、撮影はまた別の日に…」

「大丈夫です！ がんばります！」

計画外の中出しにもめげずに、仕事を続けようとする島村卯月に、スタッフ一同、涙。

もっとセックスしたくなっただけだろうとはツツコミを入れずに、コンドームを装着して逸物を入れる。

様々な体位で突き上げられる島村卯月が、何度もイキながら、だらしない笑顔でがんばる。

がんばるといって、そんなに溜まっていたのか。

そこは早送りして、次の問題点まで、進める。